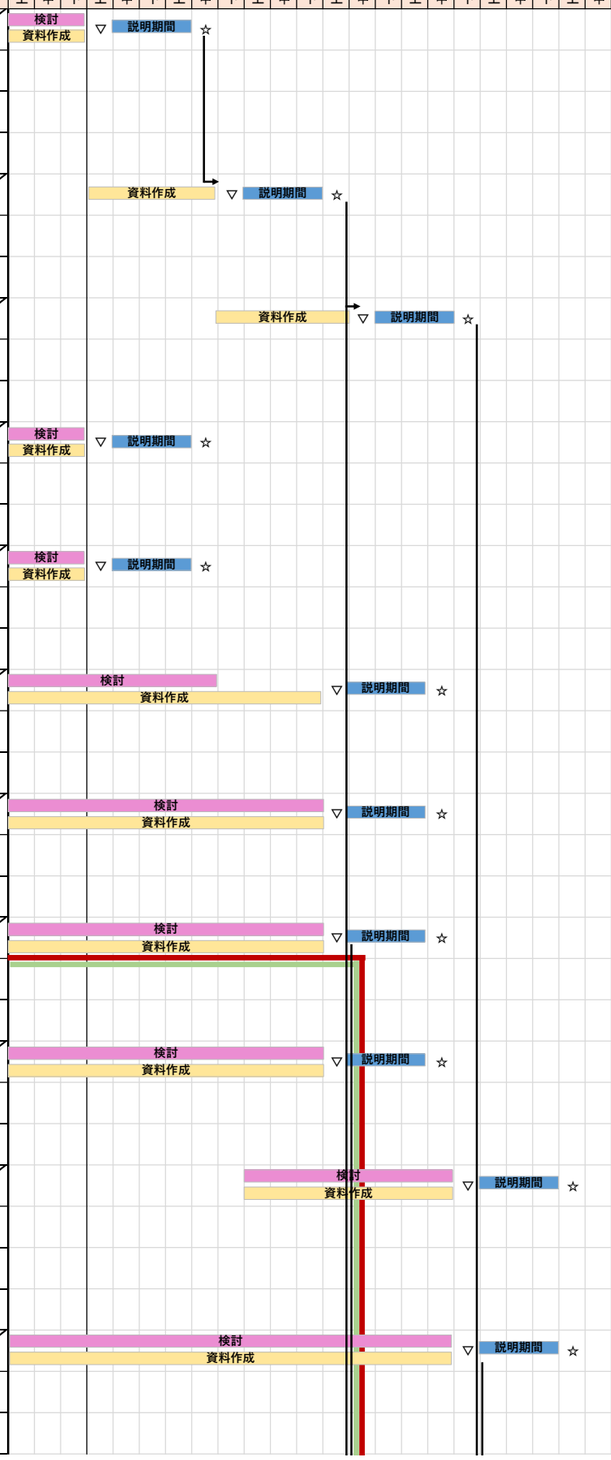
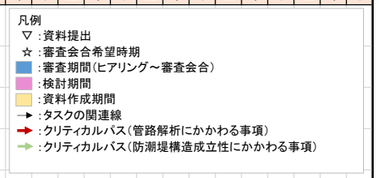
資料２－３

# 残されている審査上の論点に対する作業スケジュール（2022/3までの進捗を含む）

2022年3月31日
北海道電力株式会社

| 審査項目 | | 通しNo. | 内容 | 作業項目における作業順序 |
|---|---|---|---|---|
| 基準地震動の策定 | 震源を特定せず策定する地震動 | 1 | 標準応答スペクトルを考慮した地震動評価の妥当性 | |
| | | | 地下構造モデルの設定 | 1 |
| | | | 乱数位相による地震動の評価 | 2 |
| | | | 観測位相による地震動の検討 | 2 |
| | 基準地震動の策定 | 2 | 策定した基準地震動の妥当性 | |
| | | | 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動による基準地震動の設定 | 1 |
| | | | 震源を特定せず策定する地震動による基準地震動の設定 | 1 |
| | 基準地震動の年超過確率 | 3 | 年超過確率の参照 | |
| | | | 地震ハザード評価 | 1 |
| | | | 基準地震動の年超過確率の参照 | 2 |
| 基準津波の策定 | 地震による津波 | 4 | 日本海東縁部の地震による津波評価において設定した波源領域の妥当性 | |
| | | | 断層パターン1を西側に移動させた追加パラメータスタディの実施 | 1 |
| | | | 各評価項目における最大値の確認 | 2 |
| | | 5 | 日本海東縁部の地震による津波評価の水位低下時間に着目した水位降下側のパラメータスタディ結果 | |
| | | | 貯留堰を下回る時間に着目したパラメータスタディの実施 | 1 |
| | | | パラメータ因子の影響分析及びパラメータスタディ順序の妥当性確認 | 2 |
| | | 6 | 積丹半島北西沖に地震断層として想定することとした断層による津波評価 | |
| | | | 地震動評価で設定した断層に関するパラメータスタディ | 1 |
| | | | 各評価項目における最大値の確認 | 2 |
| | 基準津波の策定 | 7 | 日本海東縁部に想定される地震による津波と陸上地すべりによる津波の組合せの評価結果 | |
| | | | 重畳の時間差の設定 | 1 |
| | | | 同一波動場での一体計算 | 2 |
| | | 8 | 基準津波定義位置での時刻歴波形 | |
| | | | 各評価項目に影響の大きい基準津波の選定 | 1 |
| | | | 基準津波定義位置における基準津波の設定 | 2 |
| | | 9 | 基準津波による遡上津波高さと比較する津波堆積物等の整理結果 | |
| | | | 津波堆積物に関する文献レビュー | 1 |
| | | | 基準津波による遡上高さと比較 | 2 |
| | | 10 | 基準津波による砂移動評価に伴う取水性の確保 | |
| | | | 平面2次元砂移動解析の実施 | 1 |
| | | | 水路内砂移動解析の実施 | 2 |
| | | | 取水性への影響評価 | 3 |
| | 基準津波の年超過確率 | 11 | 年超過確率の参照 | |
| | | | 津波ハザード評価 | 1 |
| | | | 基準津波の年超過確率の参照 | 2 |




作業スケジュールの作成の考え方は、以下のとおり。

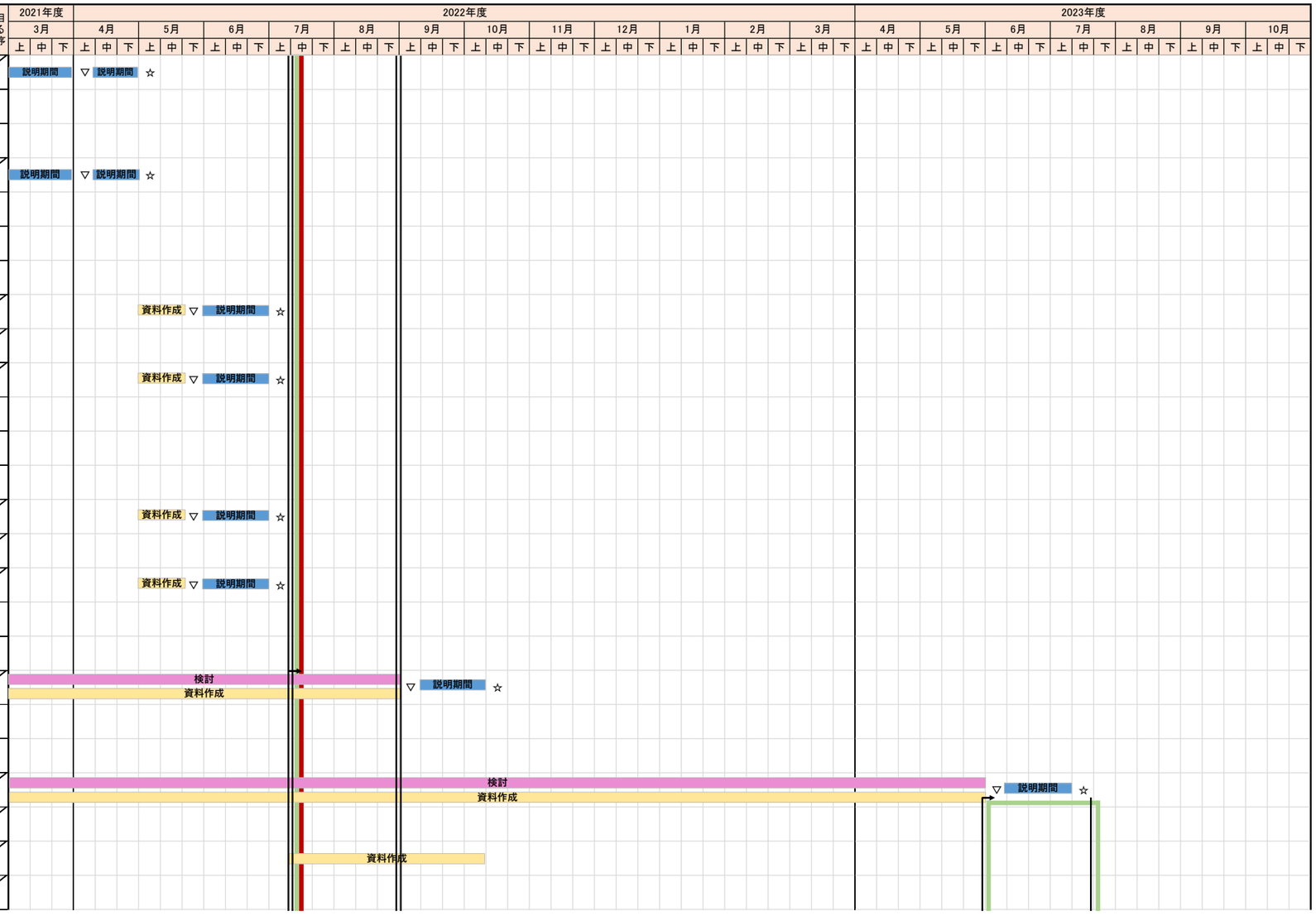
【記載方針】
- 2022年3月末の作業状況に基づき、残されている審査上の論点に対する当社の対応方針(別資料)に基づいた作業内容や評価項目を記載し、それらに対して説明が可能となる時期を示した。
- 地震・津波側審査に係る項目については、現在実施中の審査に鑑みて内容欄に具体的な作業内容を記載した。プラント側審査に係る項目については、内容欄に評価項目を記載し、棒線内に作業内容を記載した。
- 作業内容間で依存関係が生じているものについては前工程と後工程がわかるよう、矢印により示した。
- 作業内容を作業項目に分割した場合は、作業項目の作業順序は表中に数字で記載した。同時に作業可能な項目については同じ順序を記載している。
- 資料提出から審査会合までの「説明期間」は審査の進捗に依存するため一律に設定することはできないが１．５か月を基本とし、当社が考える説明の物量に応じた期間を設定(1～3か月)した。

【作成結果】
- 設置変更許可にかかわる事項の説明完了までの期間は、耐津波設計方針に係る解析がクリティカルパスとなっている。
  クリティカルパスは管路解析及び防潮堤構造成立性に関係する作業内容で構成されているため、それぞれ図示した。
- 主要な項目である防潮堤の構造成立性の説明時期および設置変更許可に係る事項の説明完了までの期間は、3月3日の審査会合で提示したスケジュールからの変更はない。
- 3月3日の審査会合前後での他社審査状況の当社作業内容への反映により、基準津波は説明時期が3月3日の審査会合で提示したスケジュールの1か月後となった。

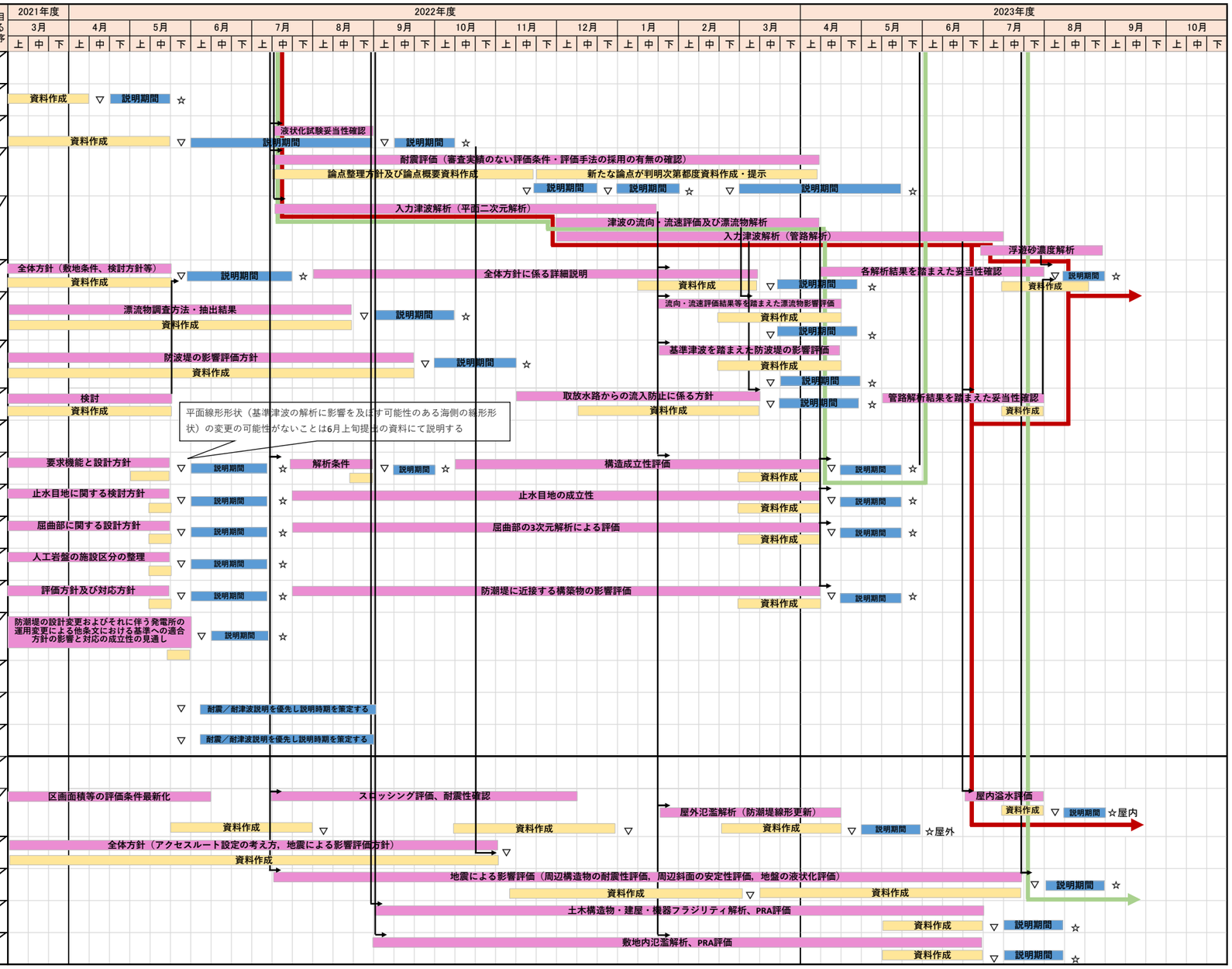
# 残されている審査上の論点に対する作業スケジュール（2022/3までの進捗を含む）

2022年3月31日
北海道電力株式会社

| 審査項目 | | 通しNo. | 内容 | 作業項目における作業順序 |
|---|---|---|---|---|
| 火山影響評価 | 立地評価 | 12 | 発電所に影響を及ぼし得る火山の抽出 | |
| | | | 網羅的な文献調査結果を踏まえた、地理的領域内にある第四紀火山の活動履歴更新 | 1 |
| | | | 活動履歴の更新結果を踏まえた、原子力発電所に影響を及ぼし得る火山の抽出 | 2 |
| | | 13 | 巨大噴火の可能性評価 | |
| | | | 活動履歴の整理 | 1 |
| | | | 地球物理学調査結果の整理 | 1 |
| | | | 巨大噴火の可能性評価に関する検討 | 2 |
| | 影響評価 | 14 | 敷地及び敷地周辺のボーリング調査で確認された火山灰層の層厚評価 | |
| | | | 当社調査結果に基づく、敷地及び敷地周辺に認められる火山灰の整理 | |
| | | 15 | 敷地における降下火砕物の層厚評価 | |
| | | | 文献調査及び当社地質調査結果に基づく、敷地における降下火砕物の層厚評価 | 1 |
| | | | 降下火砕物シミュレーションによる、敷地における降下火砕物の層厚評価 | 1 |
| | | | 敷地における降下火砕物の層厚に関する総合評価 | 2 |
| | 火山モニタリング | 16 | 選定した監視対象火山 | |
| | | | 第四紀に設計対応不可能な火山事象が敷地に到達した可能性評価結果に基づく監視対象火山の選定 | |
| | | 17 | 先行審査知見、火山部会報告書を踏まえた監視項目 | |
| | | | 公的機関による評価等の発表情報、公的機関の観測網によるデータの収集・分析 | 1 |
| | | | 収集・分析結果を踏まえた、監視対象項目の選定 | 2 |
| 地盤斜面の安定性 | | 18 | 新設防潮堤に関係しない断面の評価結果 | |
| | | | 基礎地盤の評価断面の選定及び解析 | 1 |
| | | | 周辺斜面の評価断面の選定及び解析 | 1 |
| | | 19 | 新設防潮堤の形状・構造を踏まえた新設防潮堤を含む断面の評価結果 | |
| | | | 新設防潮堤の評価断面の選定および解析 | |
| 敷地の地質・地質構造 | | 20 | 敷地及び敷地周辺の地質層序 | |
| | | | 当社地質層序作成根拠の明確化のための文献対比等の整理 | |



# 残されている審査上の論点に対する作業スケジュール（2022/3までの進捗を含む）

2022年3月31日
北海道電力株式会社

| 審査項目 | | 通し No. | 内容 | 作業項目における作業順序 |
|---|---|---|---|---|
| プラント側審査の主要な説明項目 | 耐震設計方針 | 21 | 耐震設計方針及び耐津波設計方針に係る審査実績のない設計条件・評価手法の採用など | |
| | | | 地下水位の設定 | |
| | | | 地盤の液状化影響評価 | |
| | | | 既工認との手法の整理（耐震設計方針含む） | |
| | 耐津波設計方針 | | 耐津波設計に係る解析工程 | |
| | | | 耐津波設計方針 | |
| | | | 漂流物の影響評価 | |
| | | | 防波堤が損傷した場合の影響評価 | |
| | | | 取放水路からの流入防止 | |
| | 防潮堤 | 22 | 防潮堤に係る残置する防潮堤や建屋からの影響など平面線形形状の決定に影響する事項について根拠を含めた網羅的な整理 | |
| | | | 防潮堤の設計方針・構造成立性評価 | |
| | | | 防潮堤への波及的影響 | |
| | 耐震・耐津波設計方針以外 | 23 | 耐震設計方針及び耐津波設計方針以外の審査項目の審査中断以降の反映状況 | |
| | | | DB・SA関連（地震・津波の反映，自主的設計変更，他社審査知見反映） | |
| | | | バックフィット案件 | |
| | | — | 地震・津波側審査の論点に係る審査項目を実施後に評価を実施する事項 | |
| | | | 屋外氾濫解析等溢水評価 | |
| | | | アクセスルート | |
| | | | 地震PRA | |
| | | | 津波PRA | |